

上野文化美術保存会

会長
やお こうすけ
八尾 光祐さん



お問い合わせ
TEL 0595-23-9779
(上野西部地区市民センター内 事務局)
最新情報はFacebookをご覧ください。
www.facebook.com/uenotenjinmatsuri

上野文化美術保存会

毎年秋に行われる「上野天神祭のダンジリ行事」(国指定重要無形民俗文化財)。厳粛な神輿行列、滑稽な鬼行列、にぎやかなおはやしを乗せた豪華なだんじりと続く、変化に富んだ行列が評価されています。その祭行事を後世に伝えるため、保存会では担い手不足などの課題に取り組んでいます。

三重県内で活動するグループを紹介する「いま、グループネット」。2016年に、「桑名石取祭の祭車行事」、四日市市の「鳥出神社の鯨船行事」とともに、伊賀市の「上野天神祭のダンジリ行事」がユネスコ無形文化遺産に登録されました。今回は、ダンジリ行事の継承に努める「上野文化美術保存会」です。会長の八尾光祐さんにお話を伺いました。

―保存会はどのような役割をされていますか？

八尾：ダンジリ行事の運行や継承、だんじりの飾りや鬼が被る面の保存に携わっています。なかでも、ユネスコ無形文化遺産に登録された、江戸時代から続く「上野天神祭のダンジリ行事」を、しっかりと後世に伝えていくことが、保存会の大きな役割です。近年、ダンジリ行事

の担い手不足が深刻になっていきます。世界にも認められた行事をいかに継承していくかが、ここ数年の課題です。

―5月の終わりに、今年から日程を変更すると新聞で発表されました。担い手不足を解消するための解決策ですか？

八尾：はい。上野天神祭は、菅原神社の例大祭の10月25日に合わせて、23日から25日の3

日間行われていました。23日はだんじりの搬入や飾り付け、24日にはだんじりの曳き初めと、鬼の「足揃えの儀」を行います。本祭の25日は、早朝から多くの鬼とだんじりが練り歩きまわります。今までは、この3日間が平日になることも多く、年々、ダンジリ行事に参加する人が減ってきています。伊賀で育った人たちが市外へ移り、人口が減っているからです。今年から日程を、金曜日、土曜日、日曜日の3日間にするので、地元出身者が故郷に戻り、参加しやすくなればと思います。

八尾：はい。平成14年に国指定重要無形民俗文化財に指定されたのをきっかけに、よりスムーズな祭の運行を目的として、上野天神祭地域振興実行委員会が発足されました。私たち保存会も、メンバーの一員です。長年、祭に関わってきた経験や、まつり町の人手不足を把握している立場から、日程変更の必要性を訴えてきました。市長を中心とした実行委員会での検討の結果、今年の日程変更が決まった次第です。今年は10月20日の金曜日から22日の日曜日にダンジリ行事が行われます。上野天神祭の例大祭は、従来どおり25日です。

―1つ課題をクリアしたわけですね。お囃子や、鬼の演技などの継承についてはどうですか。

八尾：どちらも経験者による指導のもとで、その年の演者に伝えられます。鬼の演技に関しては、教える経験者が町内に少なくなっているのが現状です。鬼にはそれぞれ個性があり、歩き方一つにも特徴があります。演者は、本来なら目の前で経験者の動作を見て表現を覚えるのですが、それが難しくなり、口伝えに

よる練習が多くなってきました。ダンジリ行事の日程が変更になり、参加者が増えることは期待できますが、鬼の演技の練習は、その前から始まりまわります。演技の継承は、これからの大きな課題です。

―ユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、地域の皆さんの意識は変わりましたか？

八尾：地域の人は、以前とあまり変わりはないようです

が、「郷土のダンジリ行事は、世界の宝」という意識を持つこともありますが、私たちの仕事です。その一歩として、今年の4月23日に「上野天神祭のダンジリ行事 春のお披露目」を、人通りの多い上野市駅前広場で開きました。祭の時は、行列はすぐに通り過ぎてしまいます。お披露目では、だんじりの刺繍の幕や飾り物、鬼の姿を近くでじっくり見てもらえるようにし

ました。こうした一つひとつの積み重ねが、ダンジリ行事の認知度アップにつながり、また、ここで育った人たちが、郷土の祭行事を誇りに思うきっかけになればと思います。

―ありがとうございました。

伝統ある祭行事を継承していくことの難しさを教えてもらったお話でした。今後も、課題解決へ向けて、保存会の活動が期待されます。



継承の課題や、祭行事のPRに取り組む皆さん



「春のお披露目」は、上野市駅前広場で賑やかに開催



鬼も揃った「春のお披露目」



「春のお披露目」では、だんじりの豪華な装飾を間近で